

2021夏季闘争ニュース

No.21-08 2021年7月1日
発行:目黒地区労働組合協議会/教宣部
【HP】<http://meguro-rokyo.jp/>
メール union@r05.itscom.net

今年こそ:最低賃金大幅UPを!

6月22日、中央最低賃金審議会開催。日本の最賃の仕組みは、毎年この時期に、中央審議会が全国をランク分けした最賃の目安額を示し、それに基づき、各県で県別最賃を決めるという仕組み。しかしこの結果、全国各県の格差が拡大。昨年は「目安」がでず、結果東京都の最賃は時給1,013円のまま据え置きでした。審議会開会に合わせ、会場の厚生労働省前で宣伝・集会。今後中央最賃審議会は、7月1日、7日、13日と開催予定です。



東京最低賃金審議会に要請行動

これに先立ち6月7日、東京春闘共闘、東京地評は7日朝から、九段の東京労働局前で宣伝行動。三十数名で300枚弱チラシ配布。10時から労働局労働基準部賃金課に要請行動。労働局からは、労働賃金課長、同課長補佐、賃金課賃金指導官など。東京春闘共闘からは事務局長ほか13名参加。要請文は労協HPに収録。(労協/事務局)

6.17 JAL株主総会前宣伝行動

6月17日、東京ガーデンテラス(有明テニスの森となり)で日航株主総会。約100名で宣伝行動→終了後集会。(以下、原告団HPより)

残念ながら会社から解決に向けての具体的な話は全くありませんでした。一体いつまで解決を引き伸ばすつもりなのでしょう。我々はJALの横暴に屈するつもりは全くありません。勝利の日まで闘い続けます。(目黒労協/事務局)



職場報告—コロナ禍での組合活動

大東通信機労組

夏季一時金の取り組み—満額要求を勝ち取る

会社の状況は、昨年度から受注の好調が続き、製造現場もひっ迫し、残業・休日出勤が続いていました。そういった背景もあり、今後の活力のためにも予算以上の金額である2ヶ月(予算+0.5ヶ月)を、組合は要求しました。あわせて現場の疲弊を訴え、せめて賞与で還元することも要求しました。

この組合要求に対し、会社の一次回答で2ヶ月を引き出すことができ、即時妥結の運びとなった。夏季賞与で予算1.5ヶ月を超える賞与を引き出せたのは、過去10年で記憶がない。執行委員会の努力と組合員の協力が、うまくマッチして勝ち取れたものと、私たちの大きな自信となりました。

会社の「新型コロナ対応」について

一方、コロナ関連のことでは、私たちの要求は不発に終わっています。

① 体温37.5度以上で自主的に休むよう、会社通達がコロナ拡大当初からありました。そしてそれは、「個人の有休で対応して欲しい」とのことでした。それに加え、「コロナ陽性」となった場合も、「社内のコロナ対策は万全であるため、陽性となった場合、それはプライベートで感染したものであり、自主都合(個人の有休)で休むことになる」というものでした。

② PCR検査の費用を会社負担にできないかと議題にあげたが、「会社が指示した場合のみ費用負担する」という回答であり、社員の安全・安心を考えていない、会社の方針・回答でした。

社員・組合員の健康と安全のため、労組としては今後も、コロナ関連には関心を高く持って、対処していきたいと考えています。

新入社員と組合への加入について

今期は4名の新入社員(目黒事業所3名、つくば事業所1名)が入社し、そのうち目黒事業所の2名が組合に加入しました。コロナ情勢のため、今年も歓迎会を開催できずにいますので、緊急事態宣言が解除されたら、飲食なし・少人数での歓迎会を考えています。(6月3日記：副委員長)



東京土建一般労働組合目黒支部

組合員拡大の活動を通じて得たこと

「東京土建」では組織拡大に向け、毎年お祭り騒ぎのように、中央本部と各支部共に競争をあおり、奔走しています。組合機関紙「建設」には、各地域の取組みや、真新しい情報などを紹介して、全体のテンションを高めています。そういう中、3月25日より5月末までの「春の拡大月間」では、目黒支部は87名の目標に対し、91名の拡大を勝ち取ることができました。

ところで仲間の拡大は、自分にとってはとても辛く、この季節がいやになります。ましてやコロナ禍で、対象者への訪問行動や電話かけなど、仕事が手につかなくなります。拡大の得意な人の、

難なくこなしているのを見ると、自分はいつも羨望の目で見届けることになります。打ち上げの日に、「成果」が持ち寄れなかった時には、恥ずかしくて身を隠したい思いもあって、その言い訳を考えた時期もありました。もう30年も、こんなことを繰り返してきました。この「拡大の活動」を通じて得たことは、個別訪問や建築現場で知り合った仲間が増え、普段から情報交換を行い、仕事に備えることができたことなど、一歩前進した経験でした。

「拡大」は、どの世界でも必要なことのように思えます。その組織に所属している限り、仕事として割り切りたい。そもそも建設労組に入ったきっかけは、安定した仕事の確保、賃金の底上げや労働環境の向上、労使が共に発展できる、自由で開かれた社会にしたいがため、自分だけが生き残れば良いわけではないだろう、という思いからです。

協力し団結して組織を大きくし、仲間と共に時の権力(政治や大資本など)を相手に交渉して、より良き社会の実現を根底に努めていかなければならない。拡大を通じて得た教訓を、社会に活かせたらと、私なりに思う次第です。(6月4日記：労協執行委員)



「児童のオリパラ観戦中止を求める」要請書賛同提出 →目黒区は6月22日中止を決定



東京都教職員組合組目黒支部からの要請に応え、目黒区教育委員会宛の「児童のオリパラ観戦中止を求める」要請書に、目黒労協議長名で賛同署名しました。あわせて市民団体から提起のあった、目黒区議会への、「オリンピック・パラリンピック「学校連携観戦」の中止を求める意見書に係る陳情」(*[労協HPに収録](#))にも賛同し、6月9日区議会議長あて提出。6月23日審議予定でしたが、6月22日、区議会文教委員会で区は連携観戦中止を発表しました。約1万3000人の児童・生徒が参加予定だったとのことです。(目黒労協/事務局)

6月22日 目黒労協執行委員会開催

6月22日、午後6時30分から、土建目黒会館にて、労協執行委員会開催。ワクチン職域接種やワクチン休暇の情報、夏期一時金など各職場の近況、オリパラ学校連携観戦中止を求める取り組み、保育園民営化計画への労協意見案(*[労協HPに収録](#))などを討議しました。また、コロナワクチン接種に関する、区内職場や加盟労組の状況、接種に関しての会社の対応条件など調査。交流を行いました。